

2 マルチを利用した病害防除（なす、トマト、きゅうり、すいか、いちじく、ぶどう等）

マルチング栽培は、雑草の発生抑制、土壌の乾燥防止や寒害防止、地温調整などの効果をねらい、わらなどを使って古くから行われているが、病虫害防除にも効果が高い。

特に、シルバーポリフィルムのマルチングはウイルスを伝搬する有翅のアブラムシ類やアザミウマ類の忌避効果が高く、露地栽培では大きな効果を発揮する。

①マルチングによる各種病害の防除効果

ア 土壌のはねあがり防止

マルチングによって、降雨等による土壌のはねあがりを防止し、病害の発生を抑制する。ただし、マルチ上にできるだけ雨水がたまらないようにする。

害虫忌避効果をねらう場合は、シルバーポリフィルムのマルチングが望ましい。

作物名	病害名	効果的な使用時期
なす	褐色腐敗病、褐紋病	梅雨期、秋雨期前
きゅうり	疫病、炭疽病	梅雨期前
すいか	疫病、炭疽病、つる枯病	梅雨期前
いちじく	疫病	梅雨期前

イ ハウスやトンネル内の湿度低下

ハウスやトンネル内は高温多湿になりやすいため、病害が蔓延することがある。マルチングによって、土壌水分の蒸散が抑えられ、施設内の湿度が下がり病害の発生を抑制することができる。

通路も含め、できるだけ広い面積を覆うことが望ましい。

作物名	病害名	効果的な使用時期
なす、トマト(施設)	灰色かび病	全期間(冬期は透明マルチ)
きゅうり(施設)	灰色かび病、菌核病 斑点細菌病	全期間(冬期は透明マルチ)
ぶどう(施設)	灰色かび病	開花前～幼果期

ウ 地温上昇抑制

敷きわらの地温上昇抑制効果が最も高い。黒色フィルムやシルバーポリフィルムのマルチングは地温上昇抑制効果のほか、高温で発生が増加する病害の発生を遅延させることができる。

なお、マルチングの資材は、高価だが害虫忌避効果も高いシルバーポリフィルムがより望ましい。

作物名	病害名	効果的な使用時期
果菜類	青枯病	施設 5月中旬～ 露地 梅雨明け～

②マルチングによる病害防除の留意点

株元はあまり密着させない。地際部が過湿になると、かえって病害が発生しやすくなる。追肥を行いにくいので緩効性肥料を用いる。

高温期に定植する作物では、葉焼け症状を起こすことがある。